平成２０年度

年　　報

市立大町山岳博物館

目　　次

平成20年度の活動から…… 1

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1. 資料収集…… 2

(1) 新規収集資料

2. 資料保存管理…… 2

(1) 収蔵資料

(2) 所蔵図書

Ⅱ　調査研究事業

1. 調査研究…… 4

(1) 餓鬼岳周辺におけるライチョウの生息状況

(2) 安曇地方の湿地植物における生活史の研究

(3) 鹿島槍ヶ岳荒沢奥壁、北壁登山史調査

(4) 登山史に関する研究

(5) 爺ヶ岳登山における大町第一中学校生徒がからだに受ける影響

Ⅲ　教育普及事業

1. 展示…… 6

(1) 常設展示

(2) 企画展示

(3) 特別展示

(4) 移動展示

2. 教育活動…… 9

(1) おもしろ山博ミニゼミ

(2) 研究会

(3) 学習会・講座等の開催

(4) 学校との連携、融合

(5) 学芸員実習の受入

(6) 各種観察会・学習会への協力

(7) テレビ、ラジオへの出演

(8) 収蔵資料などの貸出

3．執筆・出版…… 17

(1) 執筆

(2) 出版

4．インターネット・ウェブサイト…… 20

(1) 公式ウェブサイト

(2) 安曇野アートラインウェブサイト

5．広報…… 21

6．友の会…… 21

(1) 組織

(2) 運営部

(3) 編集部

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

(5) サークル活動

7．ライチョウ会議…… 23

(1) ライチョウ会議

(2) 第9回ライチョウ会議新潟大会

8．ボランティア活動…… 23

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1. 動物飼育繁殖…… 24

(1) 飼育動物

(2) 傷病鳥獣保護

2. 植物栽培繁殖…… 25

(1) 栽培植物

Ⅴ　その他

1. 各種委員などの委嘱…… 26

2. アルペン動物園との友好提携協定の締結…… 26

3. 信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結…… 26

Ⅵ　運営

1. 組織および職員構成…… 27

2. 協議会…… 27

3. 入館者状況…… 28

4. 平成18年度予算・決算…… 30

Ⅷ　関係条例・規則等

1. 市立大町山岳博物館条例…… 31

2. 市立大町山岳博物館規則…… 33

3. 大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱…… 35

Ⅸ　施設

1. 敷地面積…… 36

2. 本館建物…… 36

3. 付属施設…… 36

4. 本館平面図…… 37

5. 付属園の建物図…… 38

Ⅹ　利用案内…… 38

平成 19 年度の活動から

館 長　柳澤 昭夫

昨年 8 月 18 日、19 日の両日、第８回ライチョウ会議長野大会が、カナダライチョウ会議会長のキャシィ・マーチンさんを招いて、ライチョウ会議は、信州大学山岳科学総合研究所、長野県山岳協会、日本山岳会信濃支部、日本野鳥の会長野支部、伊那谷自然友の会、信州ワシタカ類渡り調査研究グループ、ＮＰＯ法人信州松本山岳ガイド協会やまたみ、信州ツキノワグマ研究会など関係者の協力を得て、大町市と共催で大会が開催された。今、地球温暖化など様々な問題が起きているが、環境変動に対して高山は非常に脆弱な面を持っている。南アルプスでは、北岳周辺のライチョウの生息数が激減し、鹿の高山への進出と高山植物の食害などがおきている。此処、後立山のライチョウの生息数も減少しているなど様々な問題がおきている。国際的視点を交えて、ライチョウをキーワードに自然環境と人間の活動、環境に優しい社会のあり方について、今高山におきている事象を通して市民とともに環境問題を考える機会になった。

現在、ライチョウの低地飼育研究は、凍結しているが、上野動物園では、平成 20 年度から､ノルウェイライチョウによる飼育研究を試みようとしている｡データー等を提供し、絶滅に備え、飼育によるセーフティネットの構築に寄与したい。

長野県は、絶滅を危惧する希少野生動物に指定してライチョウの保護回復事業に取り組んでいる。山岳博物館は、爺が岳、岩小屋沢岳周辺の生息数、生息環境（植生、動物、気象、融雪、細菌や寄生虫等）調査に協力した。次年度は、餓鬼岳のライチョウの生息状況調査と合せ、データーロガを設置するなど、高山の融雪、気象等生息環境の調査を実施したい。

市内 6 小学校の理科、総合学習の時間に甲虫調査などの授業を行った。本年度も、学校と協働での教育活動に力を入れて行きたい。引き続き調査を行うとともに、甲虫調査の結果を取り入れ、甲虫展を開催したい。

毎年、動物写生画展を開催している。保育園児から中学生までの、生き生きとした絵を見るのは、どんな絵を見るより私は楽しい。子供達の豊かな感性に感動する。パブロ・ピカソは、「私は 13 歳の時には、もうラファエロのように描くことが出来た。だが、子供たちの絵のように感動する絵を描くまで一生かかった。」と述べているのを読んだことがある。事実、13 歳の母のデッサンは、ラファエロのように上手い。大人になっても、感性をより豊かにしたい。豊かな感性が、豊かな想像性と人としての健全性を育むに違いない。大人の人たちにも感性を育む博物館でありたいと思う。

山岳博物館は、北アルプスの自然と登山がテーマである。「特色ある博物館」を目指し、北アルプスをフィールドに、感性を豊かにしたい。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1．資料収集

(1) 新規収集資料

平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日の間、寄贈によって次の資料を収蔵した。

受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住所
平成 19 年 5 月 20 日	テント(マナスル登山時使用品)	1 点	個人	長野県
5 月 24 日	名古屋山岳会会報(復刻版)	5 点	団体	愛知県
5 月 30 日	ピッケル、書籍	2 点	団体	神奈川県
7 月 10 日	「岳人」(昭和 26 年以前)	12 点	個人	東京都
9 月 9 日	コッヘル、書籍	3 点	個人	東京都
11 月 21 日	スイス山岳会誌「ディ・アルペン」	624 点	個人	東京都
11 月 29 日	化石(主に貝類)	670 点	個人	長野県
平成 20 年 2 月 13 日	スキースティック	1 組	個人	長野県

2．資料保存管理

(1) 収蔵資料

分類名および点数		分類名および点数	
自然科学系　　合計　11,416 点		人文科学系　　合計　5,411 点	
菌類(液浸標本)	129 点	山岳	3,580 点
蘚苔類(乾燥標本)	674 点	美術	189 点
維管束植物(液侵標本)	7 点	民俗	928 点
維管束植物(さく葉標本)	＊6,000 点	歴史	49 点
魚類(液浸標本)	62 点	考古	158 点
両生爬虫類(液浸標本等)	72 点	寄託(山岳、美術)	507 点
貝・甲殻類(液浸標本)	13 点	(寄託内訳)	
哺乳類(剥製・骨格標本)	225 点	個人寄託　250 点	
鳥類(剥製標本)	618 点	個人寄託(ﾋﾟｯｹﾙ関係)　93 点	
昆虫(標本ドイツ箱)	166 点	団体寄託　164 点	
昆虫(未標本作製資料)	＊1,000 点		
昆虫(液浸標本)	27 点		
その他液浸標本(調査研究資料)	103 点		
岩石・化石	＊2, 320 点		

①収蔵資料の点数

総計 16,827 点（平成 20 年 3 月 31 日現在）

※　これらの資料点数については概数である。

②現状と課題

ＩＰＭ（Integrated　Pest　Management）＝総合的有害生物管理に移行させるため、平成 19 年度より粘着トラップ等を定期的に設置し、館内への有害昆虫類・塵などの数値的把握、侵入経路の調査を行う基礎資料の収集を始めた。

a．自然科学系

動物（剥製）資料については資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されているが、昆虫（ガ類の展翅標本については採集者による同定を終えた）・地質資料等については未整理である。

維管束植物（さく葉標本）今夏開催した企画展「よみがえる高嶺の草花」で、1,000 点余りを高橋秀男氏に依頼し、同定を完了した。一方で平成 19 年 12 月から開始した未同定・未整理のさく葉標本は、進めることができなかった。

b．人文科学系

資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものはそれらの作業を段階的に進めたい。当面の目標として、受付台帳をもとにした収蔵資料目録の作成・刊行を目指す。

ｃ．管理保存

資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリンによる簡易ガス燻蒸を実施（今年度は展示室 8 回、収蔵スペース 6 回実施）。現在、資料の保存環境は劣悪である。展示ケースや収蔵スペースの床を含め、気密性を持たせた保存環境空間の確保、あるいは全館規模での防塵・防虫対策など、施設面の抜本的な改善が急務である。

（2）所蔵図書

①所蔵図書の点数

5,203 冊（平成 20 年 3 月 13 日現在）

②現状と課題

登録方法が同一であった市立大町図書館の図書登録方法の移行に伴い、未整理であった書籍とともに平成 20 年 1 月より Excel を用いて登録・整理し、ほぼ完了した。

Ⅱ　調査研究事業

1．調査研究

(1) 爺ヶ岳から岩小屋沢におけるライチョウの生息状況（担当：宮野）

長野県では平成 19 年度に自然環境保全基礎調査種の多様性調査を当該地域で実施計画を立てたが、本調査がライチョウのなわばり形成の時期に間に合わないことから、長野県環境保全研究所と共同でなわばりを推定する調査を実施した。調査時期は 6 月 29・30 日と、7 月 24～26 日の 5 日間で、雄、雌、雛の個体を確認し、なわばりの指標となる抱卵糞や卵殻、生息が推定できる鳴き声、砂浴び跡を発見した。これらを整理した結果、種池山荘から爺ヶ岳北峰までの稜線に８つがいが、また、岩小屋沢岳周辺では２つがいが形成していたと推測した。これらのつがい数は過去の結果と同程度であった。したがって、アブレ雄を考慮しても、爺ヶ岳周辺では 20 羽前後、岩小屋沢岳周辺には 5 羽前後のライチョウが生息していると推測できる。

(2) 大町市におけるクロツバメシジミの生息状況（担当：清水）

高瀬川を中心とした大町市における生息地の確認と環境変化による本種の生息に与える影響についてを調べるために、生態観察を続けているが、本年度は平成 19 年 4 月 14 日～11 月 1 日の間､平成 18 年 5 月に公共工事の関係により食草の一部を移植された場所における経過についての観察を行った。工事の影響を受けていない場所と同様に本種が発生をしているのを確認したが、移植を受けた食草は移植された斜面の下方部分のものしか活着していなかった。今後の植生遷移による影響で発生個体数がどうなるのか興味深い。

(3) 里山の甲虫調査（担当：清水）

里山に生息する昆虫を指標として里山の環境保全についてを考えるため、甲虫の背中に文字や数字を書き込んで放し、再捕獲することによりカブトムシ・クワガタムシなどの行動範囲を調べた。平成 19 年度では、山岳博物館友の会「こども探検クラブ」と大町市立の小学校全校（6 校）の協力を得た協働調査として実施した。調査期間は平成 19 年 6 月 29 日～8 月 30 日で、大町市内において 230 個体にマーキングを行った。そのうち 5 個体が再捕獲された。最も移動距離の長かった個体はノコギリクワガタのメスで約 2225m であった。各小学校によって、理科の授業、総合的な学習の時間としてなど取組みは様々であった。市内小学生による調査実施をいわゆる出前授業の形でみると、実施回数は 15 回、計 23 時限の授業数、対象人数は延べ 664 名であった。昆虫そのものについての知識を得るだけでなく、身近な生き物を通して自然環境と人との関係などを考えるよいきっかけとなった。これまでの調査結果については平成 20 年度夏の企画展に反映させたい。

(4) 安曇地方の絶滅危惧植物の生活史の研究（担当：千葉）

今年度は絶滅危惧ＩＡ 類アズミノヘラオモダカ、準絶滅危惧フクジュソウの現地調査・栽培観察などを行った。

① フクジュソウ

生活史研究のひとつとして博物館で育てて 7 年目になる個体の観察を行ったが開花にまでは至らなかった。

自生地にて草原、草原縁部、林床の 3 ヶ所に分類し、それぞれ砂糖を設置し、集まってきたアリを採取・記録し、アリ類と種子散布の関係について検討した。平成 20 年度の春に追加の調

査を行った後、論文として投稿し、本研究を終了とする。

② アズミノヘラオモダカ

安曇野市三郷・豊科および松本市島内において野外観察を行った。生活史については平成 21 年度にまとめ、終了としたい。

Ⅲ　教育普及事業

1．展示

(1) 常設展示

①新規展示

a．雪形映像（担当：岑村）

・時　期：平成 19 年 4 月 24 日（火）～

・場　所：3 階展望室

・概　要：　あづみ野雪形研究会監修のＤＶＤ「あづみの　雪形ウォッチング」を常時上映

・所　見：　ツアー的な構成で、各所から見える雪形を紹介してあるので、視界不良の天候や季節はずれでも対応ができた。

b．アニマルウォッチングⅠ（担当：飯島・前橋・岩本）

・時　期：平成 19 年 6 月 12 日（火）～8 月 28 日（火）

・場　所：2 階第 2 展示室

・概　要：付属園にて飼育している動物の写真を、撮影秘話、動物の解説コメントと併せて展示した。またあわせてビデオ映像による紹介も行った。

・展示資料：写真 15 点（撮影秘話、解説コメントつき）

・所　見：　展示室で写真を見て、「実際にこの動物が見てみたい」と言って付属園に足を運ぶ来園者もおり、動物に興味をもってもらうきっかけ作りができた。

c．アニマルウォッチングⅡ（担当：飯島・前橋・岩本・千葉）

・時　期：平成 19 年 11 月 2 日（金）～平成 20 年 2 月 17 日（日）

・場　所：2 階第 2 展示室

・概　要：付属園にて飼育している動物の写真を、撮影秘話、動物の解説コメントと併せて展示した。

・展示資料：写真 12 点（撮影秘話、解説コメントつき）、平成 19 年度新入動物の紹介

・所　見：普段見られないような動物の姿を、写真で見ていただくことが出来た。また寒くなり実際の動物を見にくい時期でもあったので、さらに良かった。

d．種であそぶ？（担当：千葉）

・時　期：平成 19 年 12 月 23 日（日）～

・場　所：2 階第 2 展示室

・概　要：　カエデの実を下に落下させると、的に大吉や吉など今日の運勢を占うことができるようにし、ドングリは板にパチンコ台のようにピンで弾かれるようにして、ゴールへと向かうちょっとした遊びができるコーナーを設けた。

・展示資料：ドングリ（ミズナラ・コナラ）、カラコギカエデ

・所　見：ドングリやカエデの種子を用いて、それらの形が自然界でどのような働きをしているのか､遊びながら学べる体験的なコーナーを設けた｡この展示をより理解してもらうため、山博ゼミで解説を行った。

e．鳥の映像館（担当:千葉）

・時　期：平成 20 年 2 月 26 日（火）～

・場　所：2 階展望室

・概　要：　博物館周辺や蓮華岳で撮影した鳥の紹介

・所　見：　博物館学芸員や飼育スタッフがビデオ撮影したウソ、オオルリ、コゲラ、イワヒバ

リを紹介。特にオオルリは雌雄の親鳥による子育ての様子をうかがい知ることが出来る貴重な映像であり、博物館の付加価値を高めることができた。

②展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,437 点（平成 19 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 623 点、人文科学系　合計 814 点）

展示テーマ	資料点数	展示テーマ	資料点数
3F 展望室		1F　ホール・特別展示室	
「北アルプスの展望」コーナー	計 4 点	「山と芸術」コーナー	計 61 点
		絵画　※2	21 点
2F　第 2 展示室　※1		その他	19 点
「山岳の自然」コーナー	計 623 点	ピッケル	21 点
北アルプスのかたち	24 点		
北アルプスの生いたち	80 点	1F　第 1 展示室	
里山から高山までの生物	235 点	「山と登山」コーナー	計 749 点
ライチョウ	7 点	北アルプスの登山史	322 点
さわれる剥製	5 点	北アルプスの山小屋	46 点
渓谷の生物	35 点	登山の道具	152 点
湖の生物	60 点	遭難	57 点
湿原の生物	55 点	エベレスト周辺の地形模型	39 点
剥製ライブラリー	102 点	日本人の海外登山	108 点
パレットライブラリー	20 点	山のコラム	25 点

※1 一次資料のほか、一部写真パネルなど含む。

※2 絵画作品については、特別・企画展開催の際は展示替えのため公開していない。

(2) 企画展示

①「動物写生画展」（担当：清水・宮野）

a. **会　期**：平成 19 年 7 月 7 日(土)～16 日(月・祝)

b. **会　場**：講堂（入場無料）

c. **概　要**：春の動物写生大会に参加した園児、児童・生徒のみなさんが描いた博物館付属園内の動物や風景の絵画を展示。

d. **主な展示資料**：園児、児童・生徒による絵画作品、全 140 点

e. **関連イベント**：

・春の動物写生大会（場所：付属園）　4 月 28 日（土）～5 月 6 日（日）　※開催期間中の土・日・祝日は「山博おもしろミニゼミ付属園の動物ウォッチング」を開催し、飼育動物の生態、身体のしくみや特徴などを学芸員が「山博おもしろミニゼミ」として説明を行った。

・写生画審査会（場所：講堂）　5 月 10 日（木）市内小中学校の先生を審査員として 23 点を選出し、中央審査へ出品。博物館職員の審査による特別賞を 10 点選出。

・中部ブロック写生コンクール　6 月 10 日（日）
（主催：日本動物園水族館協会中部ブロック、場所：名古屋市東山総合公園）

・写生画表彰式（場所：講堂）　7 月 16 日（月・祝）

f. **所　見**：地域の子供向けの企画展。絵画作品のほかに、付属園で飼育中の動物や付属園の

役割などについて写真・説明パネルによって紹介した。これにより、付属園でのカモシカの保護・繁殖事業や野生動物の救護活動について市民などに広く知っていただく機会になった。

②よみがえる高嶺の草花 - 志村烏嶺 旧蔵植物標本 -（担当：千葉・岑村）

a. **会　期**：平成 18 年 7 月 7 日（土）～9 月 24 日（月・祝）

b. **会　場**：特別展示室・ホール

c. **概　要**：明治初期に長野県に赴任した博物科教師志村烏嶺（本名：寛）に焦点を当て、烏嶺が採集した数多くの高山植物標本や、文書資料、山岳写真、登山、その時代の人物との交流を通して烏嶺に迫った企画展。

d. **展示資料**：植物標本約 150 点、書籍・写真等約 20 点

e. **所　見**：展示内容の変更が開催目前になって生じたため、準備を短時間で行ったが、当初案からは程遠い内容になってしまったことは残念である。展示解説書については、ホームページ上で見られるようにした。期間中、ミニゼミを利用し、展示解説を行った。

③「キノコ展」（担当：千葉）

a. **会　期**：平成 19 年 9 月 29 日（土）～30 日（日）

b. **会　場**：講堂（入場無料）

c. **概　要**：パネルを用いてキノコの正体の紹介および今年採れた生のキノコの展示。

d. **関連イベント**：キノコ学習会

e. **展示協力者**：飯島八郎・清沢由之・高野哲哉・山岳博物館友の会（敬称略）

f. **所　見**：今年は 144 種のキノコを展示することができた。

(3) 移動展示

①さんぱく☆ぎゃらりー

博物館の日々の活動内容や調査研究、付属園の動物たちを市民や市役所職員に理解してもらい、来館・来園を促すため、市役所市民ホールを活用して展示を行った。

a.「アニマルウォッチング～もっと近くで見てみよう～」（担当：千葉・飯島・前橋・岩本）

・会期：平成 19 年 5 月 1 日(火)～5 月 18 日（金）(12 日間)

・概要：平成 19 年 1 月より毎日、動物たちを撮影し、HP 上で紹介した写真を基に、付属園の動物たちの紹介を行った。あわせて A5 判でも見られるように手作り冊子を製作した。

b.「大北地方の絶滅危惧植物たち」（担当：千葉）

・会期：平成 19 年 6 月 11 日(月)～6 月 29 日（金）(15 日間)

・概要：博物館研究の紹介。平成 18 年度に開催した企画展パネルを用いた展示と、動画番組を制作し、絶滅危惧植物と昆虫との関係について紹介した。

c.「アニマルウォッチング」（担当：千葉・飯島・前橋・岩本）

・会期：平成 19 年 9 月 3 日(月)～9 月 21 日（金）(14 日間)

・概要：6～9 月に飼育スタッフが撮影した写真を基に、付属園の動物たちを紹介した。本展示では、新たに付属園に加わったハクビシン（愛称：マメ）、ホンドギツネ（愛称：レン）の紹介を行った。

d.「山の賛歌がきこえる」（担当：千葉）

・会期：平成 19 年 10 月 26 日(金)～11 月 9 日（金）(11 日間)

・概要：博物館では平成 18 年 12 月より毎日、三階展望室から北アルプスを撮影してきた。そのうちベスト 10 を選定し、大町市の風景を紹介した。

e.「カモシカのお休み処」（担当：宮野）
・会期：平成 19 年 12 月 12 日(水)～12 月 27 日（木）（11 日間）
・概要：高瀬川の支流渋沢周辺のカモシカの休息場について展示した。主な内容は休息場の役割として反芻・睡眠・授乳などを写真とイラストで紹介し、明るさの比較をグラフで示して場所選択の要因になりにくいことを紹介した。また、カモシカの視点からみた立ち休息と座り休息での違いとして、立てば林道をしっかり見下ろせ、座れば林道がわずかに見えることがわかったことを写真で解説した。カモシカの親子の生活をスチール写真を使ったテレビ番組を制作し放映した。なお、この展示には東京コミュニケーションアート専門学校の北アルプス森のカモシカ樂舎の協力を得た。
f「アニマルウォッチング」（担当：千葉・飯島・前橋・岩本）
・会期：平成 20 年 2 月 25 日(月)～3 月 14 日（金）（15 日間）
・概要：10～2 月に飼育スタッフが撮影した写真を基に、付属園の動物たちを紹介した。本展示では、12 月末に亡くなったニホンカモシカ（愛称：城太郎）について、国内でも最高齢に近いと思われることを紹介した。

②「アニマルウォッチング」（担当　飯島・前橋・岩本）
a. 会　期：平成 19 年 9 月 21 日（金）～10 月 31 日（水）
b. 会　場：市立大町総合病院待合室
c. 概　要：付属園にて飼育している動物の写真を、撮影秘話、動物の解説コメントと併せて展示した。

(3) その他（ミニ企画展示、新着資料展示など）
①北アルプスの写真（担当：千葉）
a. 会　期：平成 19 年 11 月 17 日（土）～
b. 会　場：2 階レクチャースペース
c. 概　要：平成 18 年 12 月から毎日撮り続けている北アルプスの写真の中から、その月のベスト 3 を選定し、一年間の北アルプスを紹介した展示。あわせて A5 判でも見れるように手作り冊子を制作した。

②「安曇野アートライン美術館展」（担当：宮野）
a. 会　期：平成 20 年 1 月 19 日（土）～2 月 17 日（日）
b. 会　場：国営アルプスあづみの公園 テーマ展示館 多目的ホール（安曇野市）
c. 概　要：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを展示。公園の来館者に安曇野のアートにふれていただいた。各館をめぐるスタンプラリーも同時開催。当館からは中村清太郎作の油彩「白馬岳」1 点を出品。

2. 教育活動

(1) おもしろ山博ミニゼミ

小・中学校の完全週 5 日制に対応したイベントとして、平成 14 年から毎週末に開催。館内での講座や野外での自然観察などを行なう。館内の場合、基本的に 1 日 2 回（同じ内容）、1 回 10～20 分程度の所要時間。野外の場合、半日あるいは終日の所要時間で 1 日 1 回開催。内容は展示に付随する解説、研究の成果、タイムリーな話題など幅広い分野について 4 月から 10 月まで

は土・日曜日、11 月から 3 月までは日曜日の開催とした。

参加者は市外・県外からの来館者がほとんどであり、そうした方々に北アルプス山麓の自然や登山に関する話題や展示資料の詳しい紹介を行なうことで、館内の見学に付加価値を得て帰っていただくケースが多かった。また、定期的に参加いただける方や、テーマに興味を持って参加していただける方もいた。

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
4	1	日	スプリング・エフェメラル（清水）	3	0	3
	7	土	大町の山と街を見てみよう（岑村）	4	0	4
	8	日	ザゼンソウとミズバショウ（千葉）	6	0	6
	14	土	春のライチョウ（宮野）	6	0	6
	15	日	サガルマータ(エベレスト)登頂者は 3000 人を越えた（柳澤）	15	0	15
	21	土	カモシカの休息（宮野）	10	0	10
	22	日	雪形ってなーに？（宮野）	19	9	28
	28	土	付属園の動物ウォッチング Ⅰ（清水）	14	8	22
	29	日	付属園の動物ウォッチング Ⅱ（宮野）	1	4	5
	30	月	付属園の動物ウォッチング Ⅲ（宮野）	4	10	14
5	3	木	付属園の動物ウォッチング Ⅳ（宮野）	2	8	14
	4	金	付属園の動物ウォッチング Ⅴ（清水）	6	8	14
	5	土	付属園の動物ウォッチング Ⅵ（清水）	17	13	30
	6	日	付属園の動物ウォッチング Ⅶ（清水）	4	2	6
	12	土	フクジュソウの実をアリはほんとうに運ぶのか？（千葉）	0	0	0
	13	日	小鳥の声を聞く会（清水）	37	4	41
	19	土	安曇野の雪形　その1（岑村）	11	0	11
	20	日	カタクリと虫の関係（千葉）	0	0	0
	26	土	安曇野の雪形　その2（岑村）	3	4	7
	27	日	ライチョウの顔にある赤いもの（宮野）	10	2	12
6	2	土	高山病（峯村）	6	2	8
	3	日	セッケイムシとは(清水)	12	5	17
	9	土	トキソウの戦略（千葉）	34	0	34
	10	日	ライチョウの羽（宮野）	16	0	16
	16	土	山の天気「低気圧の接近」(柳澤)	9	0	9
	17	日	居谷里湿原の自然にせまる～ハナノキの現状について～（千葉）　※居谷里湿原	18	0	18
	23	土	登山靴のうつりかわり（岑村）	3	0	3
	24	日	長野県準絶滅危惧ササユリの戦略（千葉）	1	0	1
	30	土	山の天気「雷」（柳澤）	5	0	5
7	1	日	日本最小のトンボ「ハッチョウトンボ」（清水）	8	0	8
	7	土	コオニユリの戦略（千葉）	0	0	0
	8	日	カモシカのひずめ（宮野）	11	0	11
	14	土	登山と水分摂取（柳澤）	5	0	5

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
7	15	日	ピッケルと杖（宮野）	12	0	12
	21	日	押し花で栞を作ろう！（千葉）	0	0	0
	22	土	山岳写真家　志村烏嶺（千葉）	0	0	0
	28	日	夏休み親子昆虫教室（清水）	4	5	9
	29	土	夏休み親子昆虫教室（清水）	4	3	7
8	4	土	夏休みにキャンプをしよう（柳澤）	22	0	22
	5	日	押し花で栞を作ろう！（千葉）	4	0	4
	11	土	企画展解説　登山家としての志村烏嶺（柳澤）	17	0	17
	12	日	カモシカの親子（宮野）	20	2	22
	25	土	よみがえる烏嶺の植物標本（千葉）	7	0	7
	26	日	カモシカの毛(宮野)	15	4	19
9	1	土	アリとコオロギ（清水）	8	1	9
	2	日	登山の準備運動（柳澤）	7	0	7
	8	土	居谷里で発見されたイヤリトリカブト（千葉）	11	0	11
	9	日	カモシカの顔（宮野）	3	0	3
	15	土	スズムシの飼い方（清水）	7	0	7
	16	日	エベレスト登山をめぐって（柳澤）	13	0	13
	22	土	種をはこんだのはだ～れ（清水）	17	0	17
	23	日	しおりを作ろう！（千葉）	1	2	3
	29	土	カモシカのけんか（宮野）	28	0	28
	30	日	キノコ学習会（千葉）	17	2	19
10	6	土	登山と呼吸（柳澤）	1	0	1
	7	日	ヒキガエルはなぜ山を登る（清水）	12	1	13
	13	土	ライチョウの羽（宮野）	12	0	12
	14	日	登山と加齢（柳澤）	8	0	8
	20	土	タネのふしぎ（宮野）	22	0	22
	21	日	登山とスタミナ（柳澤）	35	0	35
	27	土	虫こぶってなーに？（清水）	11	4	15
	28	日	カモシカの休息場（宮野）	30	3	33
11	4	日	ナナカマドとライチョウ（宮野）	21	4	25
	9	日	登山と安全（柳澤）	18	0	18
	16	日	小枝の卵の正体は？（清水）	12	0	12
	23	日	雑草、でも絶滅危惧種 ｱｽﾞﾐﾉﾍﾗｵﾓﾀﾞｶ最大の危機（千葉）	0	0	0
12	2	日	アメリカのライチョウ（宮野）	23	2	25
	9	日	ナイロンザイル（柳澤）	33	2	25
	16	日	リスとネズミのかじり痕（清水）	2	0	2
	23	日	どんぐりころころ（千葉）	0	0	0
1	6	日	鹿島槍荒沢奥壁の冬の登攀（柳澤）	7	0	7
	13	日	昆虫−凍らないナゾ−（清水）	7	2	9

開催日			題名（担当）＊館外活動の場所（空白は館内）	参加者数		
月	日	曜		大人	子供	計
1	20	日	ライチョウの巣のまわり（宮野）	0	0	0
	27	日	あなたの運勢占います（タネのひみつ）（千葉）	3	0	3
2	3	日	オオムラサキの幼虫をみてみよう（清水）	2	0	2
	10	日	カモシカの休息場のまわり（宮野）	7	0	7
	17	日	雪崩（柳澤）	1	0	1
	24	日	春植物とアリの関係（千葉）	0	0	0
3	2	日	林の中のエビフライ（清水）	3	0	3
	9	日	カモシカのくち（宮野）	0	0	0
	16	日	凍傷と低体温症（柳澤）	3	0	3
	23	日	フキのオス･メス？（千葉）	9	0	9
	30	日	山スキー（柳澤）	0	0	0
参加者数合計				799	112	911

＊ 印は野外での活動。

①小鳥の声を聞く会（担当：清水）

a．**開催日**：平成 19 年 5 月 13 日（日）

b．**場　所**：山岳博物館から鷹狩山山頂

c．**講　師**：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介

d．**協　力**：山岳博物館友の会

e．**参加者数**：大人 37 人　子供 4 人　計 41 人

f．**概　要**：野鳥を中心とした自然観察会を山岳博物館友の会の協力を得て実施した。観察した鳥類は、サンショウクイ・クロツグミ・オオルリ・ノジコなど計 39 種。

　鷹狩山での野鳥の繁殖行動は例年よりもかなり遅れているように感じられた。この観察会は、今回で 27 回を数え鷹狩山での野鳥の生息動態に関する調査記録を蓄積した。このような定点調査を継続することにより重要な資料が得られる。

②居谷里の自然にせまる～ハナノキの現状について～（担当：千葉）

a．**開催日**：平成 19 年 6 月 17 日（日）

b．**場　所**：居谷里湿原

c．**講　師**：金指あや子（(独）森林総合研究所）・小山康弘（長野県林業センター）・横井秀一（岐阜県森林研究所）・清水隆寿（大町市文化財センター）

d．**共　催**：大町市教育委員会文化財センター

e．**参加者数**：大人 18 人

f．**概　要**：居谷里湿原には、恵那山を中心に半径約 50ｋｍ範囲にのみ生育するハナノキが隔離分布している。しかし、最新の研究から、現在、居谷里湿原のハナノキの生育はかなり深刻な状況にあり現地内保全とあわせて、遺伝的資源を保つための現地外保全が必要であることが指摘され、研究者らによる現地説明会を行った。

③夏休み親子昆虫教室（担当：清水）

a．**開催日**：平成 19 年 7 月 28 日（土）・29 日（日）

b．**場　所**： ホール

c．**参加者数**：大人 8 人　子供 8 人　計 16 人
d．**概　要**：夏休みの自由研究のヒントや、昆虫採集、飼育、標本作製方法などについての疑問についての対応を行った。参加者が少なく、周知の方法を検討する必要があると感じた。

④キノコ学習会（担当：千葉）
a．**開催日**：平成 19 年 9 月 30 日（日）
b．**場　所**：山岳博物館から鷹狩山周辺
c．**講　師**：飯島八郎・高野哲哉・清沢由之(敬称略)
d．**参加者数**：大人 17 人　子供 2 人　計 19 人
e．**概　要**：参加者を 4 班に編成し、観察を行った。キノコ等を通して自然の仕組みと付き合い方を考えることを目的として実施した。

④親子探鳥会（冬鳥の観察会）（担当：清水）
a．**開催日**：平成 19 年 12 月 15 日（土）
b．**場　所**：木崎湖周辺
c．**講　師**：腰原正己・鳥羽悦男・長澤修介（敬称略）
d．**参加者数**：大人 11 人　子供 4 人　計 15 人
e．**概　要**：観察コースは昨年と同じく、木崎湖南端より湖の東側遊歩道を通り、稲尾沢までを往復するものであった。天候は雪が降り気温も低かったためか、昨年よりカモ類を比較的近い距離でじっくりと観察することができた。特にヨシガモやオカヨシガモ・カワアイサなど比較的観察する機会の少ないカモ類の特徴をじっくりと見ることができた。記録した鳥類はスズガモ・オカヨシガモ・カワウ・カワラヒワ・カシラダカ・カワセミなど 29 種であった。この観察会に何度か参加されている小学生は、フィールドスコープの使い方にも慣れ、自分で焦点を合わせ観察できるようになった。

(2) 学習会・講座等の開催
①付属園スタンプラリー（担当：飯島・前橋・岩本）
a．**開催日**：平成 19 年 4 月 28 日（土）～5 月 6 日（日）（9 日間：うち 2 日間は雨天中止）
平成 19 年 7 月 14 日（土）～8 月 19 日（日）の土・日曜・祝日、8 月 13 日～17 日は毎日開催（18 日間：うち 2 日間は雨天中止）
平成 19 年 10 月 20 日（土）～11 月 4 日（日）の土・日曜（6 日間：うち 1 日雨天中止）
b．**場　所**：付属園
c．**参加者数**：4 月 28 日～5 月 6 日：363 人
7 月 14 日～8 月 19 日：540 人
10 月 20 日～11 月 4 日：119 人
d．**概　要**：付属園内数カ所に、職員手作りのオリジナルスタンプを設置し、動物を観察しながらスタンプを探して集めてもらう。また全てスタンプを集めた参加者には、参加記念とし、特大スタンプとミニガイドブックを差し上げる。
e．**所　見**：ゲーム感覚で参加できることで、子供はもちろん大人の方にも楽しんでもらうことができ、好評を得た。また、スタンプと共に動物を観察する時のポイントを掲示したので、視点を変えて動物を見てもらえた。

②春の動物写生大会（担当：宮野・清水）

a. **開催日**：4 月 29 日（日・祝）～5 月 6 日（日）（8 日間）

b. **場　所**：付属園

c. **協　力**：荒井泰三（写生指導・敬称略）

d. **参加者数**：140 人（園児 18 点、小学生 118 点、中学生 4 点）

f. **概　要**：市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にした付属園の動物や園内風景を画題とする写生大会。動物に親しみながら写生を楽しむ機会を提供し、毎年好評である。昨年度好評だった、山博おもしろミニゼミ「付属園の動物ウォッチング」を今年度も開催し、飼育動物の生態、身体のしくみや特徴などを学芸員が説明した。

③夜のミュージアムに伴う絵本の読み聞かせ（担当：宮野）

a. **開催日**：8 月 24 日（金）・25 日（土）の 18 時 30 分～19 時

b. **場　所**：2 階レクチャースペース

c. **協　力**：栗林さとし（絵本朗読）、中村順子（ピアノ伴奏）、田中寿子（歌唱）（敬称略）

d. **参加者**：32 名（大人 22 人、小中学生 8 人、幼児 2 名）

e. **概　要**：アートライン推進協議会加盟館のうち 9 館が同時に夜間の臨時開館をし、当日それぞれの館が独自でイベントを催した。山岳博物館では展示室にある動物を題材にした絵本の読み聞かせを行った。24 日の内容はいもとようこ作「つきのよるに」（カモシカの親子の物語）、25 日は新美南吉作「ごんぎつね」（キツネと百姓の物語）で、ピアノによる効果音や朗読中に挿入された歌が好評であり、手遊びなどをすることによって、参加型となった。

(3) 作品募集

①山岳フォトコンテスト（担当：千葉）

a. **名　称**：山岳フォトコンテスト「アルプス一万尺－岳都大町をめぐる山々―」

b. **テーマ**：標高 2400m以上の大町市の山々の風景

c. **審　査**：近藤 辰郎（敬称略）

d. **募集期間**：告知から平成 19 年 12 月 2 日まで

e. **応募点数**：写真 28 点、メッセージ 18 点

f. **賞**：金賞 1 点、銀賞 2 点、銅賞 2 点、入選 5 点

g. **展　示**：全作品を平成 20 年 6 月 12 日（木）～29 日（日）まで「－岳都大町をめぐる山々―アルプス一万尺 公募写真展」と題して展示予定

h. **所　見**：マスコミ・雑誌等に開催の周知を広く行ったが、当初見込んだほどの点数が集まらなかった。原因にいまや一般に普及したデジタルカメラによる撮影を不可としたことが考えられる。

(3) 学校との連携、融合

期日	内容（館外の場合：実施場所）	対象校・学年など	人数	担当
5 月 1 日	生き物の学習、動物の絵を描く	大町東小 2 年	65	清水
5 月 18 日	遠足で地域を知る学習	大町北小 3 年	112	柳澤、宮野、岑村、清水
5 月 21 日	理科「生き物のくらし～春～」 「甲虫マーキング調査」（東小）	大町東小 4 年（1組）	27	清水、宮野（記録）

期日	内容(館外の場合:実施場所)	対象校・学年など	人数	担当
5 月 21 日	理科「昆虫の育ち方」 「甲虫マーキング調査」(南小)	大町南小 3 年(2 組)	24	清 水 、宮 野 (記録)
5月 22 日	登山事前学習会	大町仁科台中 2 年	148	柳澤、宮野
5 月 23 日	理科「生き物のくらし～春～」 「甲虫マーキング調査」(東小)	大町東小 4 年(2 組)	27	清 水 、宮 野 (記録)
6 月 7 日	甲虫マーキング調査(美麻小)	美麻小学校 1～6 年	79	清水
6 月 8 日	甲虫マーキング調査(西小)	大町西小 4 年(1 組)	35	清水
6 月 13 日	登山事前学習会(美麻中)	美麻中学校	37	柳澤
6 月 13 日	総合的な学習　地域学習	白馬高校 1 年	39	岑村、清水
6 月 29 日	甲虫マーキング調査(八坂小)	八坂小理科クラブ	4	清水
7月 4 日	総合的な学習　地域学習	白馬高校 1 年	40	柳澤
7 月 5 日	甲虫マーキング調査(美麻小)	美麻小 6 年	15	清水
7 月 11 日	甲虫マーキング調査(南小)	大町南小 3 年(2 組)	24	清水
7 月 13 日	甲虫マーキング調査(東小)	大町東小 4 年(1・2組)	54	清水
7 月 19 日	野外実習の事前学習 昆虫と植物の共進化(大町高校)	大町高校 1 年	35	千葉
7 月 20 日	甲虫マーキング調査(西小)	大町西小 4 年(1 組)	35	清水
7 月 20 日	甲虫マーキング調査(北小)	大町北小 5 年(2 組)	31	清水
7 月 24 日	高山の自然(爺ヶ岳種池小屋周辺)	八坂中 1・2 年	26	清水
7月 24～25 日	登山引率(白馬岳)	大町高校	47	千葉
8 月2日	野外実習　身近な自然、湿原の二次遷移(親海湿原)	大町高校 1 年	28	千葉
8 月 29 日 30 日	職場体験学習　動物飼育	大町第一中 2 年	2	宮野、清水、千葉、飯島、前橋、岩本
9 月 5 日 6 日	職業体験学習　動物飼育	大町仁科台中 2 年	2	宮野、飯島、前橋、岩本
10 月 10 日 11 日	職業体験学習　動物飼育	八坂中3年	2	宮野、飯島、前橋、岩本
11月 9 日	甲虫マーキング調査(西小)	大町西小 4 年(1 組)	35	清水
12 月 20 日	職業体験学習	大町北高校	4	清水
2 月 14 日	甲虫マーキング調査(美麻小)	美麻小6年	17	清水
2 月 29 日	甲虫マーキング調査(南小)	大町南小 3 年(2組)	24	清水
実施回数:27回		学校数:13 校	人数合計:1,018 人	

(4) 学芸員実習の受入（調整：宮野）

期　日	実 習 者	人員	担当
9 月 7 日～17 日 (11 日間)	帝京科学大学理工学部アニマルサイエンス学科 3 年	1人	柳沢、宮野、岑村、清水、千葉、飯島、前橋、岩本
9 月 13 日～28 日 (11 日間)	信州大学理学部生物科学科 4 年 信州大学理学部地質科学科 4 年	1 人 1 人	柳沢、宮野、清水、千葉
	合　計	3人	

学芸員実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、山岳博物館では 10 日間の実習を原則としてしている。本年は３名を受け入れ、受付業務、資料整理、教育普及等の実習を行い、特に市民登山のアシストやキノコ展の準備等の実習では多くの時間をさいて実習にあたった。また動物専攻の実習生からは野生動物の飼育管理実習の希望があり、飼育下におけるニホンカモシカの行動パターンの観察と時間帯による採食量の差異について調査しレポートした。

(5)インターンシップ（企業研修）の受入（調整：宮野）

期　日	実 習 者	人員	担当
7 月 8 日～12 日（5 日間）	東京コミュニケーションアート専門学校 2 年	1人	宮野、飯島、前橋、岩本
	合　計	1 人	

（6）各種観察会・学習会の共催・協力

①共催事業

a．居谷里自然観察会（担当：千葉）

・開催日：平成 19 年 4 月 28 日（土）
・場　所：居谷里
・主　管：大町市教育委員会文化財センター（山岳博物館は共催）
・参加者数：約 30 名
・概　要：居谷里湿原において、遊歩道を一時間程度、参加者を連れ、居谷里湿原の成り立ちやそこに生える植物、昆虫との関係などの解説。
・所　見：昨年まで一日三回の観察会実施であったが、今年からは諸事情により一日二回のとなったのは残念である。今後も自然観察会を続けるのであれば、若者を対象にインストラクターなどを育成することが必要と思われる。

b．山岳博物館公開講座（担当：宮野）

・演題：「ライチョウをとりまく環境」、講師：長野県生活環境課・江住和彦
　　山岳博物館・宮野典夫
・開催日：平成 20 年 3 月 16 日（日）
・場　所：講堂
・共　催：長野県
・参加者数：49 人
・概　要：ライチョウの生活では 3 月～9 月までのナワバリの形成、産卵、抱卵、育雛の概略を示した。爺ヶ岳におけるナワバリについては昭和 36～38 年の 7 個、昭和 55 年の 10 個、平成 14 年の 9 個、平成 19 年の 6～8 個であり、大きな変動はない。（宮野）

　植生の概要は過去 40 年間で大きな分布変化はなく、ハイマツの枯損、ニホンジカによる食害はない。近年の夏（6～ 9 月）の積算温度の上昇がハイマツに影響して成長が他の植物よりもやや旺盛である。自動撮影カメラによりサル、キツネ、テンなど多くの動物が記録されたが、糞便の内容物からはライチョウの捕食は確認されなかった。ライチョウの糞便からは南アルプス等の他の調査結果と比較して、寄生虫の検出率がやや高い傾向がみられた。（江住）

②協力事業（調整：宮野）

期日	内容(館外実施場所)	主　催	参加者	担当
4 月 29 日	雪形の学習会	大町市児童センター	16 人	岑村
5 月 13 日	昆虫調査	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	4 人	清水
5 月 11･21 日	雪形のある風景写真展 (ギャラリーいーずら)	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	出展数 8 点	岑村
5 月 14 日	雪形なんでも座談会 (ギャラリーいーずら)	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	7 人	岑村
5 月 13･14 日	雪形ウォッチング (市内～南･北安曇郡内)	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	46 人	岑村
5 月 21 日	第 4 回北アルプス雪形まつり (大町市文化会館)	大町市、北アルプス雪形まつり実行委員会	約 1,500	岑村
5 月 26 日	雪上技術講習会講師(針ノ木雪渓大沢小屋付近)	長野県山岳総合センター	22 人	柳澤
6 月 22 日	ホタルについて	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	11 人	清水
6 月 8 日	信州登山案内人試験(長野県山岳総合センター人工岩場)	長野県観光部	35 人	柳澤
7 月 1 日	山岳自然保護講座(長野県山岳総合センター)	長野県山岳総合センター	30 人	宮野 清水
7 月 13 日	ホタルについて(農具川)	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	8 人	清水
7月 16 日	寺子屋講座･昆虫観察会(池田町滝沢および林中公民館)	池田町林中地区子ども会育成部	33 人	清水
7 月 22 日	甲虫調査	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	2 人	清水
7 月 31 日 8 月 1 日	夏休み昆虫講座「蝶のからだのつくりについて」(ふれあい館)	松川村児童クラブ	56 人	清水
8 月 9 日	夏休み子供昆虫教室(児童ｾﾝﾀｰ)	児童センター	40 人	清水
8 月 11･12	こども探検ｸﾗﾌﾞ夏のキャンプ(七倉)	山岳博物館友の会	6 人	柳澤
8 月 22 日	何でもチャレンジ 2007 自然編:川と遊ぼう(高瀬川)	松川村青少年育成村民会議	86 人	清水
9 月 28 日 ～30 日	「野生生物保護管理基礎コース」現地研修	野生生物保護学会青年部会	20 人	宮野
9 月 30 日	ナナフシについて	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	4 人	清水
10 月 18 日	ライチョウの生態と飼育	4区理科助手研究会	9 人	宮野
10 月 20 日	仁科三湖クリーンラリー(木崎湖)	大町市生活環境課	22 人	清水
10 月 27 日	秋の昆虫(池田町)	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	6 人	清水
11 月 18 日	冬の里山野鳥について(池田町)	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	2 人	清水
2 月 10 日	冬鳥の観察会	山博友の会「子供探検ｸﾗﾌﾞ」	11 人	清水
2 月 15 日	飼育技術者資格試験試験官(長野市茶臼山動物園)	日本動物園水族館協会	3 人	清水
3 月1･2 日	リーダーコース修了研修(長野県山岳総合センター･人工岩場)	長野県山岳総合センター	17 人	柳澤
			参加者数合計 約 2,000 人	

（8）収蔵資料などの貸出（調整：宮野）

期　日	用途	貸出先	貸出資料
平成 19 年 4 月1日～平成 20 年3月 31 日	教育普及用	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示用	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	常設展示用	富山市科学文化センター	ライチョウ剥製 1 点
平成 19 年 10 月 31 日～平成 20 年 3 月 15 日	学校での美術教育	大町第一中学校	絵画 3 点(教育委員会所管で山博が保管資料)
平成 20 年 1 月 16 日～3 月 31 日	展示用	山梨県立博物館	ライチョウ剥製 1 点

このほかにも多数の各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる取材や資料撮影・閲覧などがあり、随時これらに協力した。

（9）調査研究に関する発表

①植物関連（担当：千葉）

『アズミノヘラオモダカの長野県木曽町における新産地と既知産地の現状』と題して、植物地理分類学会へ大塚孝一・尾関雅章（長野県環境保全研究所）・八木隆（大阪市）と連名で投稿した。

② 動物関連（担当：宮野）

『爺ヶ岳から岩小屋沢岳におけるライチョウ *Lagopus mutus* の生息状況』と題して、長野県環境保全研究所研究報告第 4 号へ、堀田昌伸・尾関雅章（長野県環境保全研究所）と連名で投稿し受理された。

3．執筆・出版

（1）執筆

①各担当職員

当館の調査研究および教育普及事業にかかわる執筆活動については以下の通り。(「山と博物館」を除く)

a．宮野

・3000 分の 1 羽

『やまなみ No.187』: 長野県山岳協会

b．清水

・小鳥の声を聞く会を開催して

『ダム水源地ネット 7 月号』(176 号) : (財) ダム水源地環境整備センター

・第８回ライチョウ会議長野大会開催

『やまなみ No.187』: 長野県山岳協会

②大糸タイムス連載「山博ゼミ」（調整：宮野）

地元新聞社との協力で平成 15 年 3 月から新聞へのシリーズ連載。当館で開催している「おもしろ山博ミニゼミ」の内容を中心に、北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて、隔週土曜日の地元新聞紙面にて紹介している。平成 16 年 2 月までは毎週掲載していたが、同年 3 月以降は大町市文化財センターの連載が加わったため、隔週にて連載を行なっている。

新聞の紙面を借りることで、北アルプスや身近な自然あるいは登山の歴史などについて多くの方々に向けて効果的に情報発信することができる。また、記名記事であることから博物館職員の“顔”が見えるということで市民から好評を得ている。

掲載月日	回	執筆者	題　　名
4 月 7 日	130	飯島	こんなおすそ分けいかがですか？
21 日	131	千葉	白いお花が大集合④サクラソウ
5 月 12 日	132	岩本	カナヘビ
26 日	133	清水	オトシブミ
6 月 9 日	134	千葉	白いお花が大集合⑤サギゴケ
23 日	135	宮野	ライチョウは環境を記憶している？
7 月 7 日	136	前橋	チョウゲンボウがやってきた
21 日	137	柳澤	登山と水分摂取
8 月 4 日	138	清水	子育てする昆虫①
18 日	139	柳澤	登山のウォーミング・アップ
9 月 1 日	140	飯島	いい匂い
15 日	141	清水	子育てする昆虫②
29 日	142	宮野	ライチョウの巣のまわり
10 月 13 日	143	宮野	ブロッケンの妖怪とモルゲンロート
27 日	144	千葉	アズミノヘラオモダカ細大の危機
11 月 10 日	145	宮野	ウエストンとライチョウ
24 日	146	柳澤	登山とスタミナ
12 月 8 日	147	宮野	ライチョウ料理
22 日	148	千葉	帰化植物①セイタカアワダチソウ
1 月 5 日	149	前橋	恋の季節到来②
19 日	150	清水	木の枝そっくりのナナフシ
2 月 2 日	151	岩本	十頭十色
16 日	152	宮野	ライチョウの生息地への執着
3 月 1 日	153	宮野	ダンスするライチョウ
22 日	155	前橋	付属園へ行こう

(2) 出版

①新規出版物

a. 展示解説情報シート

常設展示に関して、展示解説パネルでは紹介しきれない情報を項目ごとにまとめた A4 判のカラー版。館内にて 1 部 30 円で販売しており、今年度は 322 部の利用があった。

b.『山と博物館』（担当：宮野・岑村・清水）

昭和 31 年 2 月に『やまと博物館』として創刊（昭和 32 年 1 月『山と博物館』に改題）。毎月、多分野の方々に原稿を寄せていただき、北アルプスを中心とした山岳の自然や歴史などの「山岳文化」と博物館の活動について広く情報発信を続けている。

毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁、単色刷り。定価 100 円。年間購読料 1,500 円（送料含む）。

平成 20 年 3 月 31 日現在、購読者数 542 名。内訳は市内 129 名（有料 4 名、無料 37 名、友の会 88 名）、市外 413 名（有料 53 名、無料 269 名、友の会 91 名）

巻号	月	頁	題　　名	著者名
52・4	4月	①	滝雲流れる鹿島槍ヶ岳　＊	近藤辰郎
			山岳ﾌｫﾄｺﾝﾃｽﾄ「ｱﾙﾌﾟｽ一万尺　岳都大町をめぐる山々」の開催	大町山岳博物館
		②～④	ザラ・針ノ木越えの検証（二）	小林茂樹
52・5	5月	①	針ノ木岳　慎太郎祭のとき　＊	山本携挙
			針ノ木岳慎太郎祭 50 周年	大町山岳博物館
		②～④	ザラ・針ノ木越えの検証（三）	小林茂樹
52・6	6月	①	白馬山御花畑　＊	国立科学博物館
			「よみがえる高嶺の草花-志村烏嶺旧蔵植物標本」開催にあたって	大町山岳博物館
		②～④	企画展「よみがえる高嶺の草花-志村烏嶺旧蔵植物標本」　近代日本登山の先駆者が遺した山の宝物（前編）	岑村隆 千葉悟志
52・7	7月	①	マーキングした甲虫を放す子ども達　＊	清水博文
			里山の甲虫調査	清水博文
		②～④	企画展「よみがえる高嶺の草花-志村烏嶺旧蔵植物標本」　近代日本登山の先駆者が遺した山の宝物（後編）	岑村隆 千葉悟志
52・8	8月	①	長野県知事賞仁科台中学校 3 年天木令奈さん「ふくろう」	天木令奈
			動物写生	宮野典夫
		②～④	ザラ・針ノ木越えの検証（四）	小林茂樹
52・9	9月	①	唐沢岳幕岩　＊	柳澤昭夫
			唐沢岳幕岩	柳澤昭夫
		②～③	ツキノワグマの 2006 年大量出没の要因を考える	岸元良輔
		④	ザラ・針ノ木越えの検証（五）	小林茂樹
52・10	10月	①	ライチョウ　＊	平瀬貴志
			「第 8 回ライチョウ会議」の開催	ﾗｲﾁｮｳ会議事務局
		②～③	クラックの横にボルトはいらない	中嶋岳志
		④	種をまくタヌキ	平澤瑞穂
52・11	11月	①	第七十五回国際山岳連盟総会　＊	佐伯尚幸
			第七十五回国際山岳連盟総会	尾形好雄
		②～③	国際山岳連盟について	尾形好雄
		④	松本国際山岳環境会議 2007 の開催について	若月東兒
52・12	12月	①	長野県警察犬訓練所の磯本所長とﾓﾝｷｰﾄﾞｯｸﾞのｱｽｶとﾐｯｷｰ＊	（大町市）
			ﾓﾝｷｰﾄﾞｯｸﾞ全国ﾃﾞﾋﾞｭｰ農作物鳥獣被害対策検討会大町市で開催	村山司
		②～④	クビワコウモリの生態と保護活動について	山本輝正
53・1	1月	①	クーラ・カンリ山群北面　＊	山森欣一
			クーラ・カンリ三山縦走登山の勧め	山森欣一
		②～③	飼育下におけるニホンカモシカの食餌量からわかる発情周期と繁殖計画	飯島志津・前橋基子・岩本尚也
		④	北安曇郡池田町でコカブトムシを採集	清水博文
53・2	2月	①	ニホンカモシカ　＊	戸谷諭美
			ニホンカモシカに魅せられた学生	宮野典夫
		②～④	「高校山岳部の活性化」を考える	大西浩
号	月	頁	題　　名	著者名
52・3	3月	①	（代かきの写真）＊	大町山岳博物館
			代かきのころ	宮野典夫
		②～④	雪形－山麓の民俗－	宮野典夫

＊印は表紙写真等を示し、この場合の著者名は撮影・提供者名等を記した。

d. **年報**（担当：宮野）

『平成 18 年度年報』（発行日：平成 19 年 7 月 18 日、発行部数：200 部、体裁：A4 判、44 頁、単色刷り）を編集・発行した。

.**②販売中の出版物**

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成 19 年 3 月 31 日現在）

書　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	大町山岳博物館	毎月 25 日	年間購読、館内販売
展示解説情報シート	大町山岳博物館	随時更新	館内にて販売中
北アルプスの自然と人（展示案内書）	大町山岳博物館	2005 年	〃
カモシカ 氷河期を生えた動物	信濃毎日新聞社	1991 年	書店にて販売中
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	信濃毎日新聞社	1992 年	〃
新・北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	2001 年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	2002 年	〃

4. インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉）

今年度は、『なるほど北アルプス画像館』に「雪形解説書」、『さんぱく検定』を新設し、今夏開催した「よみがえる高嶺の草花－志村烏嶺 旧蔵植物標本－近代日本登山の先駆者が遺した山の宝物」と過去に開催した「對山館と百瀬慎太郎　岳都大町に花開いた山岳文化の原点を探る」の企画展解説書も HP 上で見られるようにした。

『お知らせ』、「今日の北アルプス」、「アニマルウォッチング」は一日も休むことなく更新した。また『学芸員情報情報』は 17 の話題、『飼育員の奮闘記』は 28 の話題を提供し、喫茶売店こまくさの紹介や同所で行われた作品展、イベントの PR にも努めた。

なお、「今日の北アルプス」の毎日の撮影が（独）科学技術振興機構に評価され、月刊誌「Science Window2008 年 1 月号」に掲載された。

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

(2) 安曇野アートラインウェブサイト（担当：宮野・平林）

当館が加盟する安曇野アートライン推進協議会では、平成 17 年 4 月にウェブサイトを開設したていたが、平成 18 年 9 月にサイトを充実させてリニューアルした。ここでは当館所蔵の山岳風景画など絵画を中心に紹介し、当館公式ウェブサイトとリンクさせて企画展やイベント情報などを随時発信している。“今週のおすすめ”では 6 月 4 日、8 月 20 日、10 月 22 日、1 月 7 日、3 月 10 日にトップページでイベント情報を提供した。

URL：http://azumino-artline.net/museum/oomachi/

5. 広報

(1) 博物館めぐり案内図（担当：平林）

新規加入館があり、大町博物館連絡会は 10 館で構成されている。「おおまち博物館めぐり案内図」はＢ４縦カラーで 12 月に 5 万部を発行した。地図の範囲を仁科神明宮付近まで拡張し、

大町市街地の拡大図を挿入した。

(2) **リーフレット**（担当：千葉・清水・平林）

a. **配　布**: 6 月 26 日(水)～28 日(金)・8 月 24 日（金）

b. **場　所**：大町市・小谷村・白馬村・松川村・池田町・安曇野市・松本市・小川村・中川村

c. **配布枚数**：20,000 枚

d. **概　要**：山岳フォトコンテスト募集リーフレットおよび企画展リーフレットを博物館パンフレットや博物館めぐり案内図とともに各所へ配布した。

(3) **夜のミュージアム ポストカード**（担当：宮野・千葉）

a. **配　布**: 8 月 24 日(金)･25 日(土)

b. **場　所**：9 加盟館

c. **配布枚数**：200 枚

d. **概　要**：アートライン推進協議会加盟館のうち 9 館が同時に夜間の臨時開館をした夜のミュージアムにあわせて、各館オリジナルポストカードを製作し、来館者に無料配布した。

(4) **ポスター**（担当：千葉）

平成 19 年 12 月より、博物館への誘客を目的に大町市観光協会ガラス面を利用して、博物館三階からの眺望を紹介したポスター（縦 420㎜×横 1800㎜）3 枚を掲示し、開館時間・料金・企画展開催日時の周知にした。現在は、3～5 月の眺望を紹介したポスターを掲示中。

6．友の会（担当：宮野）

(1) **組織**

①役員

a. **会長代理**　宮澤洋介

b. **副会長**　宮澤洋介、倉科恵一

c. **運営部**　部長：井口まり

部員：越山頼子、松坂美治子、山崎一彦、塩瀬淳也、栗林稔、宮澤洋介、有川美保子、宮田京子、三溝玲子

d. **編集部**　部長：宮沢洋介

部員：木村節子、岑村隆、丸山卓哉、五十川渡

e. **事務局**　仙波美代子、仙波桜、宮野典夫

f. **監　査**　長沢正彦、川崎晃

②構成（平成 20 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ﾌｧﾐﾘｰ会員	338 人(82 ﾌｧﾐﾘｰ)	個人会員	69 人	学生会員	0 人
賛助会員	1 団体、1 人	終身会員	3 人	名誉会員	5 人
合　計	427 人、2 団体				

(2) **運営部**

①行事

活動日	参加者	主な内容
5 月 12 日(土)	15 人	自然観察会　風穴と猿ヶ城周辺の自然観察会
7月 1 日(日)	26 人	史跡･美術館･博物館めぐり｢小諸周辺｣
9 月1日(土)～2 日	6 人	自然観察登山｢柏原新道から新越山荘へ｣

活動日	参加者	主な内容
10 月 21 日(日)	20 人	塩の道を歩くⅦ「須沢～菅沼～夏中」
11 月 22 日(木)～24 日(土)	8 人	世界遺産知床と旭山動物園の旅
12 月 9 日(日)	19 人	伝統技術を学ぶ「藤細工」
2月3日(日)	21 人	歩くスキーと自然観察会
3 月 9 日(日)	46 人	総会及び記念講演会
2 月 9 日(土)～3月 30 日(日)	7 人・15 点	友の会作品展

②「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主 な 内 容
125 号	4 月 8 日	行事案内…風穴と猿ヶ城周辺の自然観察会、知床と旭山動物園の旅 報告…平成 19 年度友の会総会、総会記念講演要旨　他
126 号	6 月 8 日	行事案内…小諸周辺の美術館・博物館、サクソフォンの夕べ、ヒマラヤの青い空とカトマンズ写真展 報告…風穴と猿ヶ城周辺の自然観察会　　他
127 号	8 月 7 日	行事案内…柏原新道から新越山荘へ、北海道旅行、塩の道を歩く 報告…小諸周辺の美術館・博物館、サクソフォンの夕べ　　他
128 号	10 月 7 日	行事案内…須沢から小滝へ、秋の夜長にアコースティックで奏でる珠玉の POPS たち、北海道世界遺産・知床と旭山動物園見学の旅 報告…柏原新道から新越山荘へ　　他
129 号	12 月 25 日	行事案内…つる細工ーかご作り、冬の白馬村 報告…塩の道を歩く　　他
130 号	2 月 18 日	行事案内…総会、作品展 報告…つる細工、歩くスキー　他

(3) 編集部

刊行物名	発行日	主 な 内 容
ゆきつばき 第 36 号	3 月 9 日	特集…山でばったり出会ったおはなし 友の会ひろば…行事参加者の感想 三角点…会員の投稿、雑感 行事グラフ…写真で綴る年間行事の紹介 サークルだより…烏帽子の会とこども探検クラブの報告

(4) 喫茶「こまくさ」の営業

営業期間は平成 19 年 4 月 14 日（土）～平成 19 年 10 月 28 日（日）

a．１階ホール隣での飲み物及び物品販売のサービス提供

b．イブニングコンサート「サクソフォンの夕べ」6 月 24 日（日）開催 107 名参加

c．写真展「ヒマラヤの青い空とカトマンズ」7 月 21 日（土）～8 月 5 日（日）開催

d．ビデオ上映会「こころのふるさとネパールと白銀のヒマラヤ」7 月 21 日開催 6 名参加

e．イブニングコンサート「秋の夜長にアコースティックで奏でる珠玉の POPS たち」10 月 27 日（土）開催 60 名参加

(5) サークル活動

①子供探検クラブ

野外活動を中心になんでもやってみようという小中学生のサークル。平成 20 年 3 月 31 日現在、サークル会員は 9 名。

月　日	内　　容	参加者
5 月 13 日(日)、7 月 22 日(日)、9 月 30 日(日)、10 月 27 日(土)	昆虫の調査や観察会	述べ 16 人
11 月 18 日 (日)	水鳥の勉強会	2 人
2 月 10 日 (日)	冬鳥の観察会	11 人

②烏帽子の会

山歩きのサークル。「連れてってもらう登山」ではなく「連れていく山行」、「次はどの山に行こう」という雰囲気で身近な山に登るサークル。平成 20 年 3 月末日、サークル会員は 23 名。

月　日	内　　容	参加者
6 月 9 日(土)	京ヶ倉(生坂村)予定を雨のため池田町東山散策	10 人
7 月 21～22 日(土～日)	船窪小屋(大町市)	6 人
9 月 29 日(土)	黒斑山(小諸市)	9 人
11 月 4 日(日)	金松時山･天狗岩山(旧梓川村)	12 人
2 月 9 日(土)	鹿島槍スキー場上部黒沢尾根(大町市)	9 人

7. ライチョウ会議（担当：清水）

(1) ライチョウ会議

平成 18 年 6 月 27 日より会議設置要綱を改正し、会議の活動目的を明確にした。構成員にはライチョウに関わる国・県の行政担当課をはじめ、富山雷鳥研究会・静岡ライチョウ研究会などライチョウ保護関係団体からの加入者も増え､充実した意見交換の場として機能されている。また、大町市（市立大町山岳博物館）は昨年度に引き続き事務局を委嘱されている。

(2) 第 8 回ライチョウ会議長野大会

ライチョウ会議長野大会は、国内研究者・行政関係者・環境ＮＧＯ等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と現状の把握、具体的な保護活動の検討などライチョウについての知見を深め、野生動植物の保護・自然環境保全の啓発を目的として開催された。平成 19 年 8 月 18～19 日の 2 日間、長野県大町市サン・アルプス大町において行政・研究者、一般市民等のべ 219 名が参加した。

「ライチョウと高山環境をいかにして守るか」を開催テーマとして、以下の 3 部で構成された。第 1 部は「ライチョウの生息域内保全と域外保全の連携」で、野外調査、生息域内と高山環境のモニタリングの必要性について考察した。第 2 部は「高山に何が起きているのか」として、高山の環境変化や、シカなどの野生動物の高山進出による植生破壊の問題など、ライチョウのおかれている現状を把握した。第 3 部のシンポジウムでは､「ライチョウの保護と高山環境の保全」と題した基調講演があり、カナダの研究者による、北米のライチョウ類の生態についての発表では海外と日本のライチョウの生息環境の差異なおを窺い知ることができた国際的視野を交えた幅広い内容であり、いま日本の高山がどのような状態にあるのかを把握し、なぜ今ライチョウを保護することが重要なのかについて認識を深めた。大町市で開始されたこともあ

り、当館のライチョウ飼育再開についての話題に関心が多く集まっていた。当館は本大会実行委員会の事務局を務めた。

平成 20 年 11 月に開催予定の第 9 回ライチョウ会議新潟大会（会場新潟市）は、実行委員会を結成し準備を進めている。

8. ボランティア活動（担当：宮野）

(1) 友の会との連携

月　日	内　　容	参加者
5 月 13 日(日)	小鳥の声を聞く会サポート(豚汁サービス)	3 人
9月 30 日(日)	キノコ学習会サポート(キノコ汁サービス)	4 人

(2) その他

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(日)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 100 人
4 月 30 日(月)･5 月 3 日･5 日	春の写生大会指導	荒井泰三	1 人
7 月 19 日(木)	博物館周辺草刈及び清掃活動	有明高原寮	35 人

(敬称省略)

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1．動物飼育繁殖（担当：清水、飯島、前橋、岩本）

付属園の今後のあり方については､博物館全体の中の事業としての位置づけ､施設の老朽化、ライチョウの生息域外保全（低地飼育）事業の凍結等多くの課題を抱えている。今後の事業展開の方向性に関しては、市民意見を反映させるため協議会からいただいた意見など教育委員会に諮った結果、当面の間は現状維持という形での事業展開となった。

(1) 飼育動物

①飼育動物の増減

a．繁殖個体

・なし。

b．死亡個体（傷病鳥獣として救護した個体は除く）

・ニホンカモシカ（オス）平成 19 年 12 月 30 日死亡。死因：老衰（加齢による衰弱、消化器障害）と考えられた。平成 2 年 2 月 24 日に大町市常盤西山で個体数調整として捕獲され、飼育されていた個体。角による年齢査定では 27～28 歳であり特筆すべき長寿個体であった。

c．今後の計画

ニホンカモシカについては、新たな野外個体の導入が困難なことから、保護収容個体に繁殖適齢期の個体を 11 月 6 日より同居飼育を開始している｡今後も友好提携を結んでいるアルペン動物園との交換動物をふまえて、国内動物園間でブリーディングローン等を行い、若い個体の確保を目的として保護収容している個体を繁殖に供していきたい｡(現在､ブリーディングローンとして富山ファミリーパークに 1 個体貸出し中)

②飼育動物（平成 20 年 3 月 31 日現在）

種　名	雄	雌	計	種　名	雄	雌	不明	計
ホンドタヌキ	1	1	2	オシドリ	(1)			(1)
ホンドキツネ	(1)	1	1(1)	トビ		(1)	(5)	(6)
ハクビシン	(2)	(1)	(3)	チョウゲンボウ	(1)	(1)		(2)
シベリアオオヤマネコ	1		1	ニホンキジ	1(1)	2(1)		3(2)
ニホンカモシカ	2(3)	3(1)	5(4)	キジバト			(1)	(1)
				オオコノハズク			(1)	(1)
				フクロウ			(1)	(1)
計	4(6)	5(2)	9(8)	計	1(3)	2(3)	(8)	3(14)

哺乳類 4（3）種・鳥類 1（7）種　　合計 5（10）種 12（22）個体

※（N）の数は保護動物

上記の他、身近な生き物を紹介するために、博物館ホール・付属園内においてイモリ・カナヘビ・ニホントカゲなど両生類・爬虫類のほか、カブトムシ・クワガタムシのなかま・スズムシなどの昆虫類を各生物の活動時期に合わせて水槽などを用いた展示を行った。

(2) 傷病鳥獣保護

長野県より平成 19 年度野生傷病鳥獣救護事業委託として､大町市および近隣市町村をにおけ

る野性傷病鳥獣救護施設のひとつとして保護動物を受け入れている。

①収容個体数

哺乳類　5（2）種 7（5）個体

（ニホンカモシカ 2（3）・ハクビシン 1（2）・ホンドタヌキ 2・ホンドキツネ 1・キテン 1）

鳥類　11（8）種 13（16）個体

（オシドリ（1）・ハチクマ 1・トビ 1（7）・チョウゲンボウ 3（2）・ヤマドリ 1（1）・キジ（2）ヤマシギ 1・キジバト 1（1）・オオコノハズク（1）・フクロウ（1）・ツバメ 1・イワツバメ 1・オオヨシキリ 1・カワラヒワ 1・ムクドリ 1）

合計 20（21）個体（そのうち死亡個体 11（2）・放鳥獣個体 6・他施設への転出個体 0・現在飼育中個体 3（19））　　※（N）の数は前年度からの継続依頼個体である。

②所見

死亡個体のほとんどは、収容時には処置を行っても手遅れまたは、重症の個体であり保護収容当日か数日後に死亡している。このような傾向は過去の実績からも顕著であり、早期における獣医師の処置が不可欠であると考えられる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことも多く、人工保育で育てた個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期収容個体となる傾向がみられる。

2．植物栽培繁殖（担当：千葉）

（1）栽培植物

①栽培植物の増減

新規なし。

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、オオシラヒゲソウ、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、ミソハギ、クララ、トキソウ

③今後の計画

松本市産のサクラソウによる種子繁殖および栄養繁殖で、博物館で栽培する個体数が増加した。栽培地の近隣にわずかではあるが地域に自生するサクラソウ個体が確認でき、地域固有の遺伝子が育まれている可能性がある。したがって、花粉媒介昆虫を介して松本産と大町産の交雑が生じることが低いながらも予測され、これは研究主旨に反することとなる。このため、本年度から開花期のみ自生地から離れた場所で栽培することとし、市観光課、企画財政課、大町市観光協会、ＪＲ信濃大町駅の協力のもと駅周辺で栽培管理した。展示期間中４、５鉢が不明となったのは残念であるが、展示は概ね好評で、20 年度は民間から展示希望が寄せられている。

Ⅴ　その他

1．各種委員などの委嘱

高山植物等保護対策協議会中信地区理事（柳澤）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会参与（柳澤）
大町博物館連絡会会長（柳澤）
大町市観光協会理事（柳澤）
大北地方特定鳥獣保護管理対策協議会委員（柳澤）
長野県山岳総合センター運営懇談会委員（柳澤）
ライチョウ会議構成員（柳澤）
桜まつり実行委員（柳澤、宮野）
栂池自然園地域保全委員会委員（宮野）
慎太郎祭実行委員（柳澤、千葉）
仁科三湖対策協議会（宮野）
北アルプス雪形まつり実行委員（岑村）

2．アルペン動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルペン動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結を行なった。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

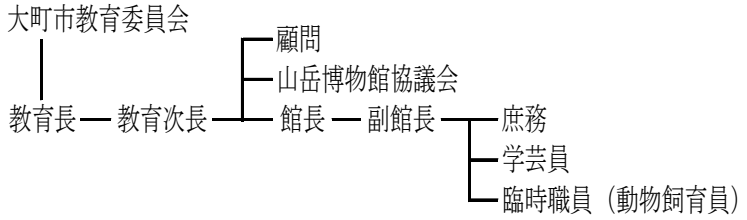
3．信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳総合研究所（藤沢謙一郎所長）と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結を行なった。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山学博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳およびそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

Ⅵ　運営

1．組織および職員構成

（1）組織



（2）顧問

千葉彬司

（3）協議会委員

学校教育関係者：小澤洋治

社会教育関係者：武田武、松原繁、横川仁、鈴木啓助

学識経験者：藤沢秀、今滝一登美、大坪三好、片山壮二、佐藤悟、下崎雄一郎、成沢勝人

（4）職員

①配置

館　長　柳澤昭夫（嘱託）

副館長　宮野典夫（学芸員兼務）

庶　務　平林恵理子、合津明

学芸員　岑村隆（人文科学系）　清水博文、千葉悟志（自然科学系）

臨時職員　飯島志津、前橋基子、岩本尚也（動物飼育）　縣真知子（庶務）

②人事異動

転　出　学芸員・関悟志（平成 19 年 3 月 30 日付にて生涯学習課生涯学習・青少年係へ）

転　入　学芸員・岑村隆（平成 19 年 4 月 1 日付にて建設課庶務係より）

新　規　庶務（臨時職員）・縣真知子（平成 19 年 8 月 1 日～平成 20 年 3 月 30 日）

2．協議会

（1）第 1 回協議会

① **日時**：平成 20 年 3 月 17 日　午前 10 時～正午

② **場所**：山岳博物館　講堂

③ **出席者**：武田武、藤沢秀、小澤洋治、横川仁、今滝一登美、片山壮二、成沢勝人
遠藤博仁、柳澤昭夫、宮野典夫、岑村隆、清水博文、千葉悟志、関悟志、平林恵理子、合津明、飯島志津、岩本尚也

④**内容**：・報告
平成 19 年度の事業経過
・協議
平成 20 年度以降の事業計画について
付属園について

3. 入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
昭和26	291		100	21		77	489				
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147				
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092				
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424				
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885				
31	2,148		888	1,036		858	4,930				
32	1,934		658	826		1,880	5,298				
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897				
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113				
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599				
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163				
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243				
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893				
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242				
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560				
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680				
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900				
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538				
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967				
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929				
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326				
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670				
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373				
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254				
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692				
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603				
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700				
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129				
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943				
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038				
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132				
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269
平成元	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577

年度	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,143	1,429			1,429
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874

(2) 平成19年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			
	個人			団体			計	一般減免	市内		計
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生	
4	992	19	57	148	1	6	1,223	42	18	28	88
5	1,377	12	78	183	0	95	1,745	155	39	350	544
6	680	0	21	156	39	2	898	58	1	176	235
7	994	10	94	267	359	526	2,250	140	10	41	191
8	2411	57	330	305	8	388	3,499	166	8	4	178
9	1248	4	39	361	0	4	1,656	112	8	20	140
10	1231	0	29	474	0	9	1,743	187	0	2	189
11	922	3	31	72	0	2	1,030	132	4	0	136
12	238	1	12	71	0	1	323	31	0	0	31
1	225	1	10	30	0	1	267	10	1	56	67
2	269	4	10	65	0	0	348	38	2	1	41
3	404	9	31	269	0	3	716	16	3	15	34
合計	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874
前年度計	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675
前年度比	78%	89%	75%	77%	75%	57%	76%	60%	58%	101%	70%

(3) 平成 19 年度の開館日数

316 日

4. 平成 19 年度予算・決算

(1) 歳入　（単位：円）

項　目	観覧料	望遠鏡使用料	県委託金	寄付金	雑　入	計
当初予算	8,295,000	120,000	150,000	0	805,000	9,370,000
決算額	5,678,450	79,800	202,000	1,000,000	716,318	7,676,568
	△2,616,550	△42,200	52,000	1,000,000	△89,642	△1,694,392

(2) 歳出　（単位：円）

項　目	一般職員人件費	博物館管理運営経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	38,384,000	15,990,000	4,291,000	713,000	707,000
決算額	40,187,679	15,504,032	3,693,973	569,007	660,162
	1,803,679	△485,968	△597,027	△143,993	△46,838

項　目	動植物飼育栽培事業	山岳博物館施設改良事業	計		
当初予算	7,932,000	8,751,000	76,768,000		
決算額	7,834,621	5,038,950	73,488,424		
	△97,379	△3,712,050	△3,279,576		

Ⅶ　関係条例・規則等

1．市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

改正　昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号　　平成元年 3 月 24 日条例第 7 号
平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号　　平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号
平成 12 年 3 月 29 日条例第 13 号　平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第５条　博物館を観覧しようとする者は､別表第１に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（使用料）

第 6 条　博物館の設備使用料は、別表第２に定めるとおりとする。

（観覧料の減免）

第 7 条　大町市教育委員会（以下「教育委員会」という）は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 8 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 9 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委

員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 10 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）の数は、15 人以内とし、教育委員会が委嘱する。

3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 11 条　この条例に定めるもののほか必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

1　この条例は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第 5 条の規定により委員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、昭和 58 年 3 月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号）

この条例は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成元年 3 月 24 日条例第 7 号）

この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号）

この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年３月 29 日条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 17 年 12 月 6 日条例第 30 号）

この条例は、平成 18 年 1 月 1 日から施行する。

別表第 1（第 5 条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1 人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 (30 人以上の場合をいう)	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

別表第 2（第 6 条関係）

望遠鏡使用料	1 回　　100 円

2. 市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

改正　平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号　平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号
平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号

（趣旨）

第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）第 11 条の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1)　毎週月曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）

（開館時間）

第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2)　管理上支障があると認められるとき。

(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。

2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各 1 名を置く。

2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。

附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式（省略）

3．大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。
附　則
この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　施設

1．敷地面積

39,875.92 ㎡

2．本館建物

（1）構　造：鉄筋コンクリート　地上 3 階 地下 1 階
（2）竣　工：昭和 57 年 5 月 31 日竣工
（3）延べ床面積：2,207.0 ㎡
（4）床面積表　（単位：㎡）

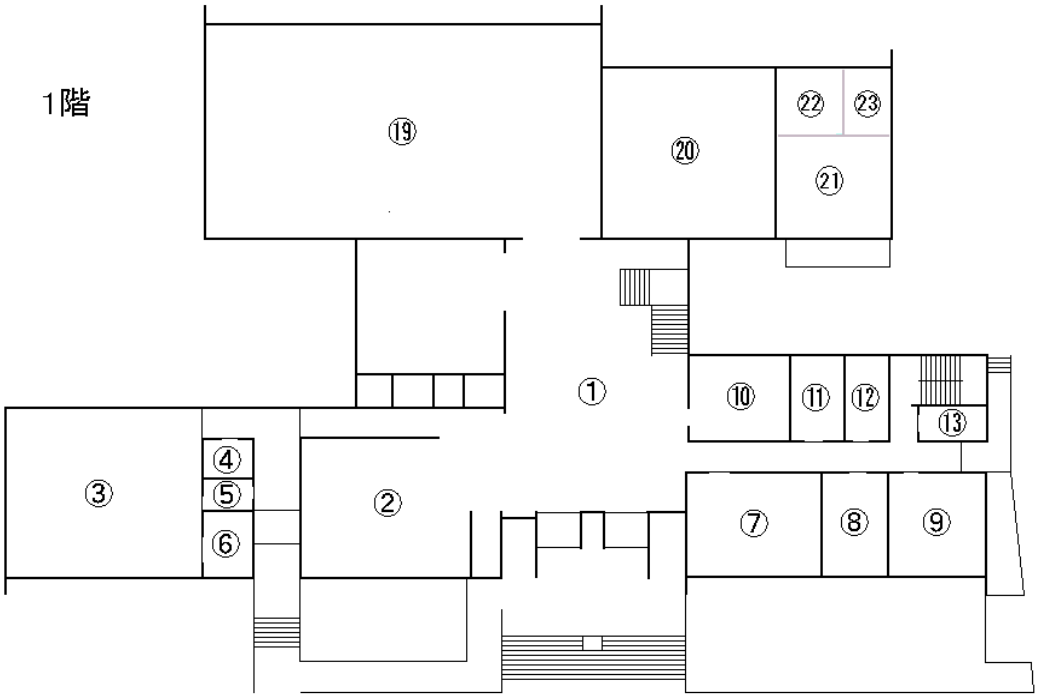
名称および面積	名称および面積	名称および面積	名称および面積
1 階　1244.9	⑬倉 庫　8.8	2 階　686.1	3 階　116.8
①ホール　205.5	⑭E. V　5.1	㉔ﾚｸﾁｬｰｽﾍﾟｰｽ　113.6	㉜展望室　94.6
②喫茶　74.2	⑮給湯室　3.0	㉕研究室　69.6	その他（階段）86.9
③講 堂　110.2	⑯倉 庫　3.5	㉖図書室　34.8	
④便 所　8.1	⑰EV 機械室　6.0	㉗倉 庫　16.0	地階　159.2
⑤映写室　5.4	⑱特別展示室　6.0	㉘収蔵庫　42.1	㉝機械室　118.8
⑥準備室　9.1	⑲第 1 展示室　290.0	㉙便 所　18.2	㉞車 庫　23.0
⑦事務室　51.0	⑳収蔵庫　104.0	㉚第 2 展示室　290.0	その他（階段）17.4
⑧館長室　18.6	㉑荷解・作業室　41.3	㉛ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　14.9	
⑨宿直室　32.5	㉒ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室　16.4	その他（廊下、階段）	
⑩便 所　29.0	㉓燻蒸室　12.3	86.9	
⑪書 庫　16.7	その他（廊下、階段）		
⑫更衣室　14.6	109.2		

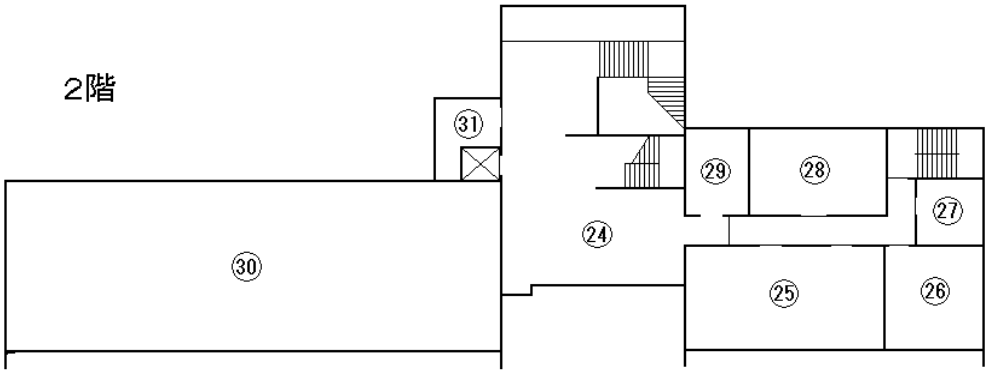
3．付属施設

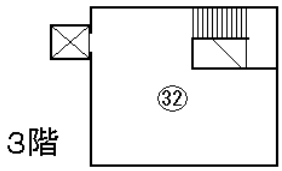
（1）付属園（本館隣）の建物

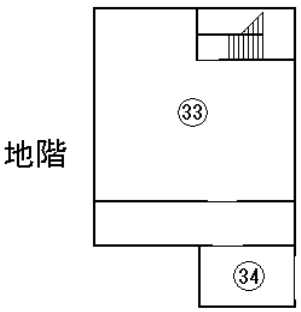
施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）	
①管理棟	33.44（S42,43）	⑫旧サル舎	14.79（S38）S55 移設
②旧ライチョウ舎第一	44.275（S44,46）	⑬飼料倉庫（上）	15.7（S57）
③旧ライチョウ孵卵舎	15.24（S48）	⑭マーモット舎	9.24（S60）
④飼料倉庫（下）	33.44（S49）	⑮ライチョウ舎第四	18.99（S61）
⑤旧ライチョウ舎第二	42.85（S49）	⑯旧オオライチョウ舎	46.5（S61）
⑥旧ライチョウ舎第三	20.26（S51）	⑰旧シャモア舎	26.92（H1）
⑦旧ﾗｲﾁｮｳ幼鳥舎	11.55（S53）	⑱旧ﾗｲﾁｮｳ緊急隔離舎	34.83（H3,4）
⑧カモシカ緊急保護舎	22.62（S53）	⑲ヤマネコ舎	5.2（H3）
⑨旧ライチョウ舎連棟	39.63（S54,55）	⑳鳥類舎	67.65（H4）
⑩中型哺乳類舎	28.20（S38）S55 移設	㉑イヌワシ舎	44.88（H7）
⑪キツネ舎	16.20（S48）S55 移設		

4. 本館平面図









5. 付属園の建物図

Ⅸ　利用案内（平成 20 年 3 月 31 日現在）

1. 開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）
2. 休館日　毎週月曜日、国民の翌日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
   ※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休
3. 交通　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシーで 5 分、歩いて 25 分
   マイカー　長野自動車道豊科 IC から 40 分
   （北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
   ※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）
4. 観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5. ユニバーサルデザイン
   入口スロープ、車イス用トイレ、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、ベビーベッド、点訳版パンフレット、アシスタントドッグ同伴可能
6. 所在地および連絡先
   〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
   （標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
   TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
   E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
   URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/

市立大町山岳博物館　平成 19 年度　年報
平成 20 年 6 月〇〇日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　〇〇〇〇
〒398-0002 長野県大町市大町〇〇
TEL:0261-22-〇〇/FAX:0261-22-〇〇

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。